

京都府の地震活動

令和7年（2025年）1月

第 38 卷 1 号

京都地方気象台

目 次

震央分布図、概況	· · · 1
震央分布図、断面図	· · · 2
京都府で震度1以上の揺れを観測した地震の震度一覧表	· · · 3
京都府で震度1以上の揺れを観測した地震の震度分布図	· · · 4
【地震一口メモ】長期評価による地震発生確率の更新について	
(令和7年1月15日公表)	· · · 6

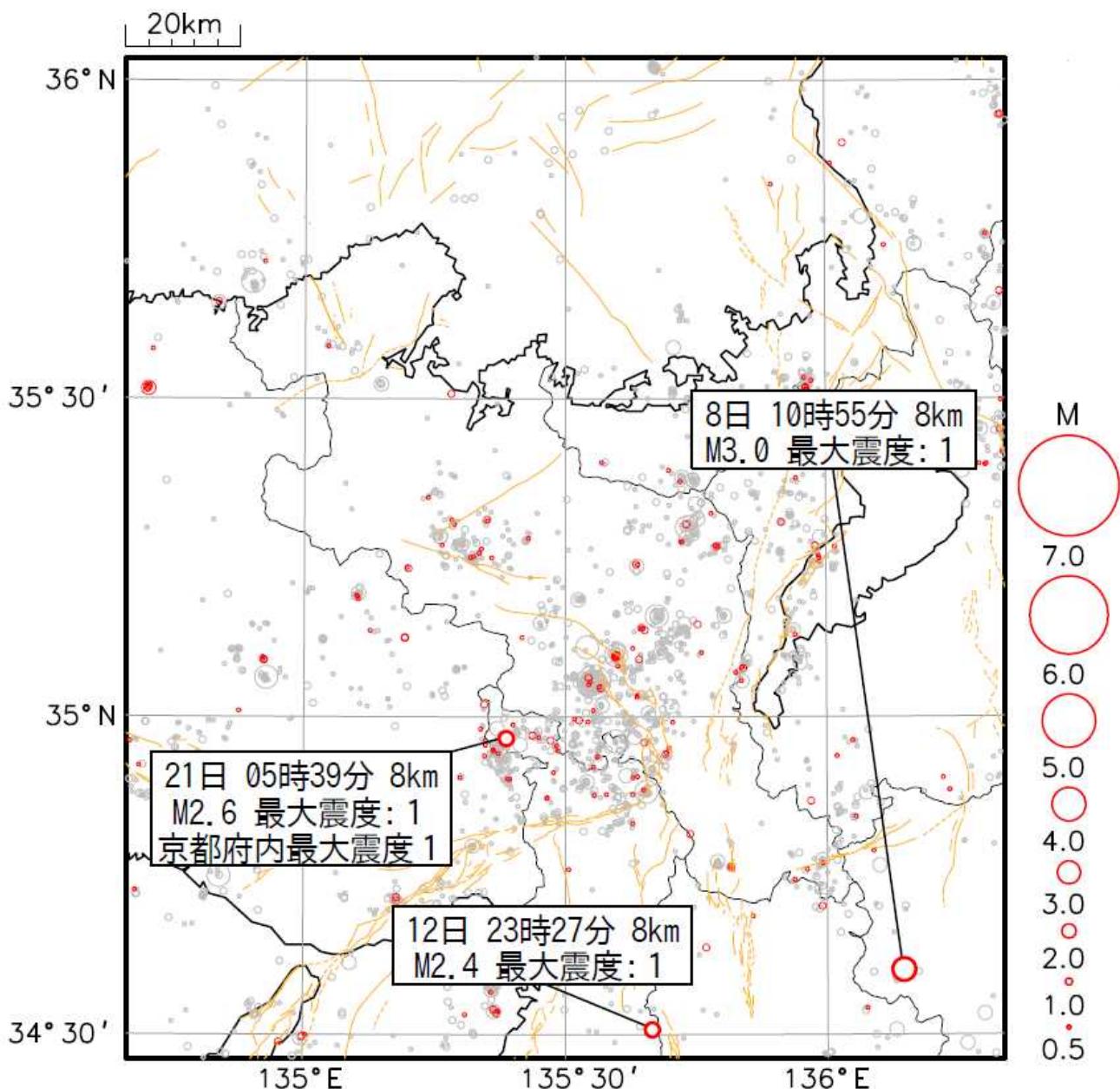
『京都府の地震活動』は、京都府及びその周辺の地震活動状況を解説するとともに、地震防災知識の普及に資するため、毎月刊行しています。

本誌に掲載した震源要素、震度データは、再調査された後、修正されることがあります。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

震度データは、気象庁の震度計の観測データに併せて地方公共団体及び国立研究開発法人防災科学技術研究所から提供されたものを掲載しています。

震央分布図（マグニチュード 0.5 以上、深さ 0～80km）



- ・(2024年2月1日～2025年1月31日、深さ 0～80km、 $M \geq 0.5$)
- ・2025年1月の地震を赤く表示（総数206）
- ・震源を表す「○」の記号は、マグニチュード (M) の大きさに対応したサイズで表記。
- ・震度 1 以上を観測した地震には、日時、深さ、マグニチュード (M)、最大震度及び京都府内で震度を観測した地震について京都市内最大震度を付記。
- ・橙色の線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

概況

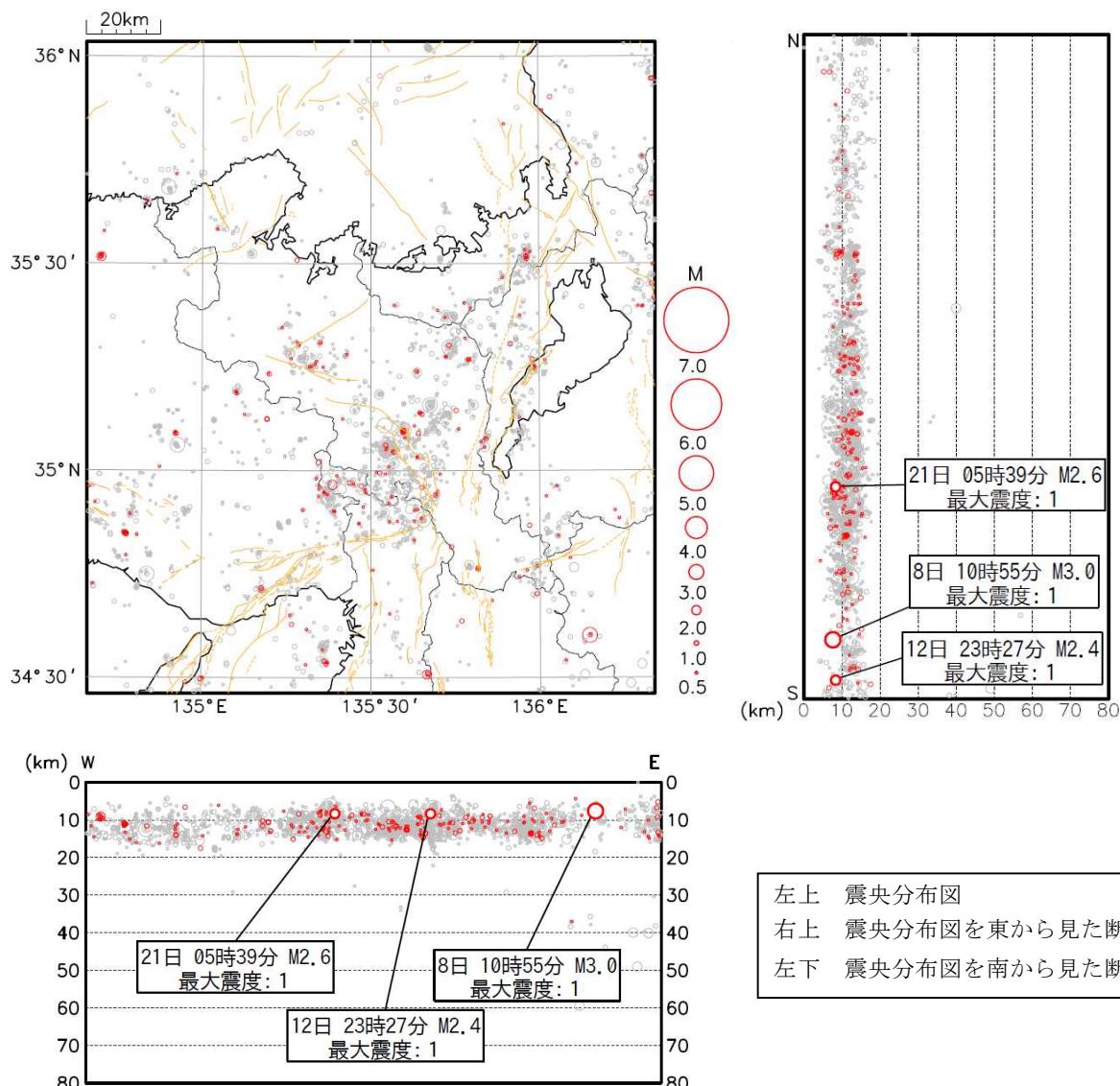
1月中、震央分布図内で観測したマグニチュード 2.0 以上の地震は 4 回、震度 1 以上の揺れを観測した地震は 3 回でした（12 月はそれぞれ 6 回、1 回）。

京都府内で震度 1 以上を観測した地震は 2 回でした（12 月はなし）。

13 日 21 時 19 分 日向灘の地震（図の領域外：深さ 36km、M6.6）により、京都府京都市南区・伏見区・西京区、京丹後市、向日市、久御山町、与謝野町で震度 1 を観測したほか、東海・甲信越・北陸・近畿・中国・四国・九州地方にかけて震度 5 弱～1 を観測しました。

21日05時39分 兵庫県南東部の地震（深さ8km、M2.6）により、京都府亀岡市で震度1を観測したほか、大阪府で震度1を観測しました。

震央分布図、断面図（マグニチュード0.5以上、深さ0～80km）



- ・(2024年2月1日～2025年1月31日、深さ0～80km、 $M \geq 0.5$)
- ・2025年1月の地震を赤く表示（総数206）
- ・震源を表す「○」の記号は、マグニチュード（M）の大きさに対応したサイズで表記。
- ・震度1以上を観測した地震には、日時、マグニチュード（M）、最大震度を付記。
- ・橙色の線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

深さ数km～約20kmに分布している地震は陸側のプレート内で発生した地震（地殻内地震）、深さ約30km～約60kmに分布している地震は、沈み込むフィリピン海プレート内の地震です。

京都府で震度1以上の揺れを観測した地震の震度一覧表（2025年1月）

番号	観測日時		震央地名	北緯	東経	深さ	規模
	月	日		(度分)	(度分)	(km)	(M)
①	1月13日	21:19	日向灘	31° 49.7'	131° 34.2'	36	6.6
②	1月21日	05:39	兵庫県南東部	34° 57.9'	135° 23.2'	8	2.6

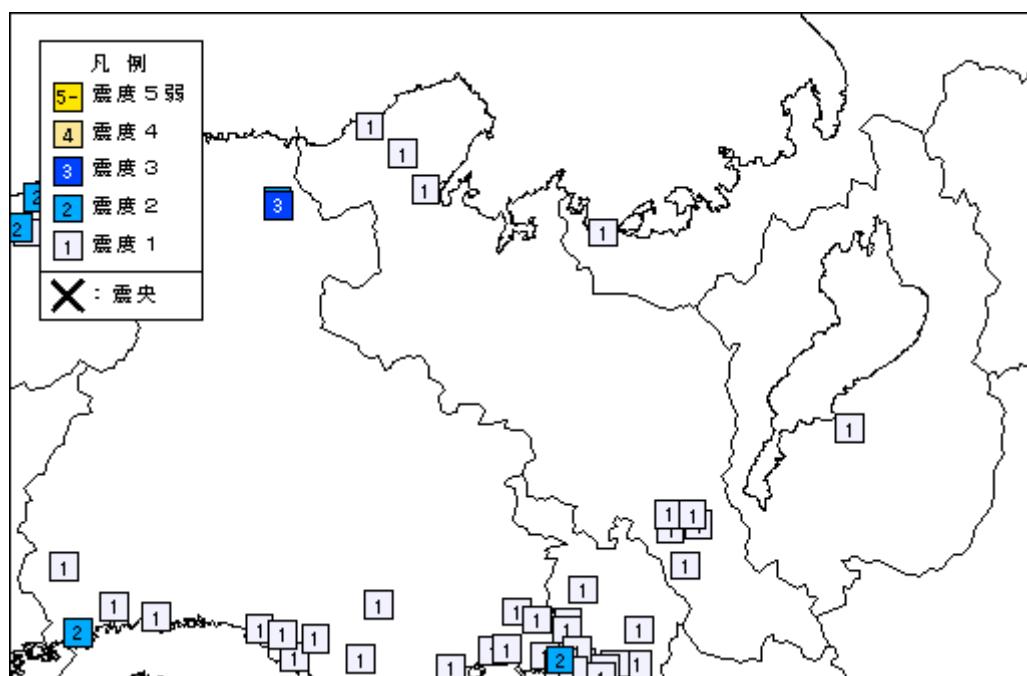
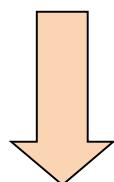
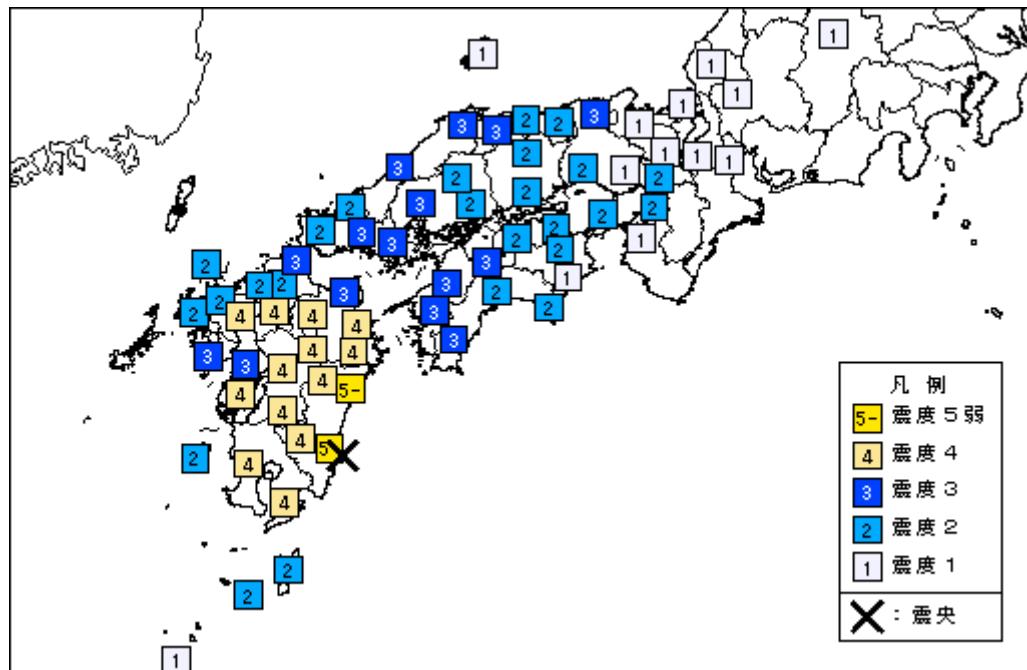
地域	震度観測点	所属	各地の震度	
			①	②
北部	福知山市内記	気	-	-
	福知山市長田野町	防	-	-
	福知山市三和町千束	自	-	-
	福知山市夜久野町額田	自	-	-
	福知山市大江町河守	自	-	-
	舞鶴市下福井	気	-	-
	舞鶴市浜	防	-	-
	舞鶴市北吸	自	-	-
	綾部市若竹町	自	-	-
	宮津市柳縄手	自	-	-
	伊根町亀島	防	-	-
	伊根町日出	自	-	-
	京丹後市弥栄町吉沢	気	1	-
	京丹後市久美浜町広瀬	防	-	-
	京丹後市峰山町	自	-	-
	京丹後市大宮町	自	-	-
	京丹後市丹後町	自	-	-
	京丹後市久美浜市民局	自	-	-
	京丹後市網野町	自	1	-
	京丹後市弥栄町溝谷	自	-	-
	与謝野町加悦	自	-	-
	与謝野町岩滝	自	1	-
	与謝野町四辻	自	-	-
南部	京都北区大宮西脇台町	自	-	-
	京都上京区鞍ノ内町	自	-	-
	京都左京区広河原能見町	防	-	-
	京都左京区田中	自	-	-
	京都中京区西ノ京	気	-	-
	京都中京区河原町御池	自	-	-
	京都東山区清水	自	-	-
	京都下京区河原町塩小路	自	-	-
	京都南区西九条	自	1	-
	京都右京区京北周山町	自	-	-
	京都右京区太秦	自	-	-

地域	震度観測点	所属	各地の震度	
			①	②
南部	京都伏見区竹田	自	1	-
	京都伏見区醍醐	自	-	-
	京都山科区安朱川向町	防	-	-
	京都山科区西野	自	-	-
	京都西京区檉原	自	1	-
	京都西京区大枝	自	-	-
	宇治市宇治琵琶	気	-	-
	宇治市折居台	防	-	-
	亀岡市安町	気	-	1
	亀岡市余部町	防	-	-
	城陽市寺田	自	-	-
	向日市寺戸町	自	1	-
	長岡京市開田	自	-	-
	八幡市八幡	自	-	-
	大山崎町円明寺	自	-	-
	久御山町田井	自	1	-
	京田辺市田辺	自	-	-
	井手町井手	自	-	-
	宇治田原町立川	自	-	-
	笠置町笠置	自	-	-
	和束町釜塚	自	-	-
	精華町南稻八妻	自	-	-
	南山城村北大河原	自	-	-
	京丹波町坂原	気	-	-
	京丹波町橘爪	自	-	-
	京丹波町本庄	自	-	-
	京丹波町蒲生	自	-	-
	南丹市美山町島	自	-	-
	南丹市日吉町保野田	自	-	-
	南丹市八木町八木	自	-	-
	南丹市園部町小桜町	自	-	-
	木津川市加茂町里	自	-	-
	木津川市木津	自	-	-
	木津川市山城町上狛	自	-	-

注1：所属のうち、「気」は「気象庁」、「防」は「国立研究開発法人防災科学技術研究所」、「自」は「自治体」を示しています。

注2：表○数字は、1月に京都府内で震度1以上の揺れを観測した地震番号を表しています。

① 1月13日 21時19分 日向灘の地震 (M6.6、深さ 36km) の震度分布図 (上
図：地域別、下図：観測点別)



② 1月21日 05時39分 兵庫県南東部の地震 (M2.6、深さ8km) の震度分布図（観測点別）



【地震一口メモ】

長期評価による地震発生確率の更新について（令和7年1月15日公表）

政府の地震調査委員会では、活断層による地震や、海溝型の地震に対して、今後大きな地震が発生する可能性について長期評価を行っており、地震の発生確率値の算定は、想定された地震が発生しない限り、発生確率値が時間の経過とともに増加するモデル※1を基本的に用いています。このため、評価結果については、その値がいつの時点を基準として算定された発生確率であるかが重要となります。これまでには、令和6年(2024年)1月1日を基準日として算定された地震の発生確率値を公表していました。

今回、これまでの算定基準日（算定基準日は毎年更新）から1年が経過したことから、算定基準日を令和7年(2025年)1月1日として再計算を行いました。その結果、海溝型地震の内、南海トラフ地震については、今後30年の間の発生確率値70～80%から80%程度と表現が変更されました（表）。ただし、これらは地震の発生の危険度が急に高まった訳ではなく、時間の経過とともに確率値が変化したものであります。地震はいつどこでも発生する可能性があることを念頭に、日頃から十分な備えをお願いします。

※1 評価対象の地震の最新活動時期が不明な場合等は、時間の経過にかかわらず、発生確率値は一定となるモデル（ボアソノ過程）を用いて発生確率値を算定しています。これらの地震については、今回の再計算の対象にはなっていません。

表 海溝型地震（南海トラフ地震）の発生確率値の更新前後の比較（赤枠は、変更があった今後30年間の発生確率値。算定基準日 令和7年(2025年)1月1日）※2

南海トラフ ^(注1)	2024年1月1日時点の評価	2025年1月1日時点の評価
M8～M9クラス	III * ランク	III * ランク
平均発生間隔	88.2年	
ばらつき α	0.20～0.24	
経過率	0.88	0.90
10年	30%程度	30%程度
20年	60%程度	60%程度
30年	70%～80% (74%～81%)	80%程度 (75%～82%)
40年	90%程度	90%程度
50年	90%程度もしくはそれ以上	90%程度もしくはそれ以上
100年	90%程度以上	90%程度以上
300年	90%程度以上	90%程度以上

- IIIランク(高い): 30年以内の地震発生確率が26%以上
 - IIランク(やや高い): 30年以内の地震発生確率が3～26%未満
 - Iランク: 30年以内の地震発生確率が3%未満
 - Xランク: 地震発生確率が不明(過去の地震データが少ないため、確率の評価が困難)
- 算定基準日における地震後経過率が0.7以上である海溝型地震については、
ランクに「*」を付記する。 ※3

※2 海溝型地震の表の補足

- ・水色で示した箇所が、再計算の結果、表記に変更のあったもの。
- ・確率値は、有効数字1桁で記述している。
- ・括弧「()」の値は、参考値として確率の計算値を表したものである。この値は有効数字1桁で示す確率値より、下位の桁の値を含んでいる。

※3 地震後経過率：最新活動（地震発生）時期から評価時点までの経過時間を、平均活動間隔で割った値。最新の地震発生時期から評価時点までの経過時間が、平均活動間隔に達すると1.0となる。

(注1) 今回公表した確率値は「南海トラフの地震活動の長期評価（第二版）」の内容を基に計算したものであるが、現在長期評価の見直しを検討しており、今回公表した確率値は今後変更になる可能性がある。

地震調査研究推進本部ホームページ「長期評価による地震発生確率値の更新について」

https://www.jishin.go.jp/evaluation/long_term_evaluation/chousa_25jan_kakuritsu_index/

地震調査研究推進本部ホームページ「長期評価」

https://www.jishin.go.jp/evaluation/long_term_evaluation/